

## 道産エゾシカゲガイ親貝の飼育条件検討および採苗試験

栽培水産試験場 栽培技術部 研究職員 井上 智

共同研究機関(協力機関): 釧路水産試験場(根室地区水産技術普及指導所、根室漁業協同組合、胆振地区水産技術普及指導所、鶴川漁業協同組合、いぶり噴火湾漁業協同組合)

## 研究の背景・目的

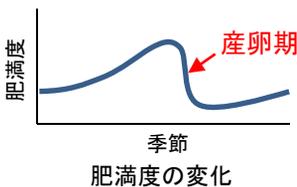
北海道の漁業生産は、沖合漁業の衰退に伴って減少を続け、2016年には初めて100万トンを下回った。主要魚種の資源量減少・不安定化が起こっている近年、海洋環境の変化に対応した沿岸漁業、なかでも増養殖に注目が集まっている。エゾシカゲガイは、北方域に生息する雌雄同体の潜砂性の二枚貝であり、豊洲市場における他県産の売単価は3000円/kgを超えることから養殖対象種として有望である。R3-5年度に実施された先行研究により、道産のエゾシカゲガイを用いた採卵が可能であること、また根室海域において天然採苗ができる可能性が示唆された。一方で、種苗生産に必要な親貝の越冬飼育や、産卵適期の天然採取が安定しないことから、**エゾシカゲガイ親貝の維持管理の重要性**が明らかとなった。

本研究では道産エゾシカゲガイ親貝の室内飼育における維持管理方法や成熟状態の確認方法を検討し、安定して採卵するための条件を明らかにすること、また人工種苗生産によらない種苗の確保方法として、天然採苗技術の検討を行うことを目的とする。

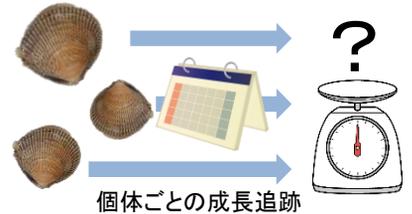
## 研究内容

## ①道産エゾシカゲガイ親貝の管理方法の検討

- 成熟度計測: 飼育個体における肥満度の推移を観測し、産卵誘発の反応状況や組織切片から判断した成熟状態との関連を調べる。またシリンジなどによる微量組織採取により生きたまま成熟を確認できるか検討する。
- 活力計測: 潜砂速度などの行動量を数値化し、活力の指標として利用する方法を模索する。
- 親貝飼育環境: 生残率や個体ごとの殻の成長および重量変化を指標とし、親貝を維持管理するための基質や餌料条件等を検討する。



潜砂速度



## ②天然採苗試験

- 天然採苗資材の検討: 各種採苗器による採苗を行いエゾシカゲガイの採苗に適した資材を検討する。
- 採苗時期の検討: 母貝の成熟特性をふまえて採苗器の垂下時期および期間を検討し採苗に適した時期を解明する。



採苗器(発泡タライ)



採苗器(丸かご)



採苗基質(札幌軟石)



採苗器投入および回収時期の検討

## 期待される成果

- ・親貝の維持管理方法が判明し、採卵が安定して行えるようになる。
- ・天然採苗条件が判明し種苗を確保できるようになる。

## 研究成果の活用

- ・安定して種苗生産試験を行える環境を構築できる。
- ・天然採苗試験により得られた結果は人工種苗の飼育に活用される。
- ・得られた種苗により養殖試験につながる。